

「家がいいね」 第57号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2009. 2. 4

地球が光をはなつ

天空に少し青さの残る時間、三日月を含む月の輪郭が丸く浮かんでいるのを見つけた。確かに光っている。それは不思議な「ほのかな」光です。

この私達が住む地球の放つ光が照らし出していると思うと、何だか懐かしいくらいに思えます。



木の橋は生きる

20年を支え続けた宇治橋の渡り納めに、偶然に立ち会えました。橋の床は船大工が作るように張り合わされ、長い航海を終えたように補修がされていました。解かれた材は、また新たな用途に使われると聞いています。命あるものは、静かに次につながることに感銘します。



新しい宇治橋の渡り始めは、11月とか。3世代つながら夫婦にその大役が委ねられます。家族が個々に分散される現代に、橋は大切な象徴として受け止められると良いのだかと思えます。

そして、本紙27号で紹介した、竹内浩三の詩「宇治橋」を思い出します。生きることを強く望みながら叶わなかった時代が65年前にあったこと、それを忘れないことが私達の責任でもあると思います。



お知らせ です

2月12日(木) 休診日ですが、県立看護大学の公開講座の講師とシンポのお手伝いをします。「在宅で高齢者を看るといふこと」

我が家での療養生活をサポートするために「13時半〜16時 津市 看護大学講堂にて講座参加は無料 事前申込制 連絡先 学生課(森岡) 059・2333・5603

12日はこのため、緊急の呼び出しには、当院の看護師ならびに連携医師が対応いたします。なにとぞ、よろしくご了承ください。

「そんな事は早く忘れなさい」って？

時間が解決することもあるでしょうが、世間は「もっと早く」と当事者にも急かすようです。思い続けることが難しい世の中だと、一度じっくりと考えてみませんか。



悲しみや悩みを分かち合う会

2月22日(日) 14時〜16時
津市 三重県総合文化センター
フレンテみえ 1階 生活工房にて

みえ生と死を考える市民の会が主催する相談会です。「大切な家族を亡くした、がん治療を始めたが、介護に疲れを感じる」など、多くの悩みを互いに語り合う場として、準備いたします。参加無料

時に癒(いや)し
しばしば和(わ)むらげ
常に慰(なぐさ)める



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://www.tcp-ip.or.jp/~takuro>